

事業名	科学技術振興事業費			調書番号	13
細事業名	未来の科学者訪問セミナー実施事業費	財務コード	000602		
担当部課室	県民生活 部 私学・科学振興 課 科学技術担当 担当 (内線)	1553			

事業の概要

実施期間	始期 H10 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(委託先:公益社団法人山梨科学アカデミー)		
目的	だれ(何)を対象に 県内小・中・高等学校の児童・生徒	その対象をどのような状態にして 本県ゆかりの研究者等から、研究内容や体験などを内容とするセミナーを受講することができる	結果、何に結びつけるのか 青少年の科学する心を育む
	内容 近年、問題となっている「科学技術ばなれ」「理科ばなれ」の傾向に対応し、青少年の科学する心を育むため、「科学の不思議」や「発見の喜び」など科学の魅力について、青少年に分かりやすく、直接、語りかけるセミナーを開催する。		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
活動指標	セミナー実施校数	目標	30	30	31	31	31	31
		実績(見込)	30	30	31	31	31	31
		達成率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		達成区分	b	b	b	b	b	b
成果指標	セミナー参加者数	目標	2,100	2,100	2,170	2,170	2,170	2,170
		実績(見込)	2,333	2,054	1,985	1,784	1,865	2,000
		達成率	111.1	97.8	91.5	82.2	85.9	92.2
		達成区分	b	b	b	b	b	b
決算(予算) 単位:千円		700	700	700	700	700	700	700

事業の評価(平成28年度の業績評価)

活動指標	b	評価	児童・生徒の関心が高く、学校(教員)が望むテーマでのセミナー開催に向け、講師となる県内の研究者等の選定を行うとともに、セミナーの時期や内容の調整を行うことにより、参加者数が毎年、目標の概ね8割以上を確保できていることから、意図した成果をほぼ上げている。
成果指標	b		

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

見直しの必要性(平成30年度に向けた改善等の考え方)

県関与の必要性	判定	<input type="checkbox"/> 必要性が高い <input checked="" type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる <input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input checked="" type="checkbox"/> その他()
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能 <input type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない
	説明	学校(教員)の意向を踏まえ、セミナーのテーマや内容を充実させていくことにより、成果向上は可能である。
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある <input type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他()
その他	説明	
見直しの必要性	有	より多くの児童・生徒の科学する心を涵養することができるよう、県立試験研究機関や大学における試験研究の取り組み状況や新たな成果を学校(教員)に情報提供するなど、新たなテーマによるセミナー開催を促すための取り組みを行う必要がある。

見直しの方向(平成30年度当初予算等での対応状況)

実施方法等の変更	説明	対象とする学校(教員)とのテーマ選定の調整において参考にしてもらえるよう、県立試験研究機関や大学における試験研究の取り組み状況や新たな成果などについて、業務委託時に情報提供していく。
----------	----	---

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。